

2018年4月13日
東日本旅客鉄道株式会社
盛岡支社

～「究極の安全」に向けた取り組み～ 2018年度「ITS実践報告会」実施のお知らせ

JR東日本グループでは、「グループ経営構想V～限りなき前進～」の中の「変わらぬ使命」を果たすため、「究極の安全」に向け様々な取り組みを推進しております。盛岡支社では、安全文化を根付かせる取り組みとして、教育訓練設備「村崎野イーハートブトレーニングセンター（MIT）」の整備・拡充を行うとともに、実践的な教育・訓練会を実施しております。

このたび、設備故障や輸送障害等の異常時対応を想定した訓練会「ITS実践報告会」の今年度の実施日程が決まりましたのでお知らせいたします。

1. ITS実践報告会について

ITS実践報告会は、設備故障や輸送障害等の異常時対応訓練を、安全確認の精度を向上させるために有効と言われる指差喚呼を実践しながら行うことで、設備部門社員およびパートナー会社社員の対応能力向上と安全意識をさらに高めることを目的とした訓練会です。

報告会では、参加社員が1組5名前後のチームを組み、30分程度の時間の中で異常時発生を想定した復旧対応を行い、作業着手から終了まで、意識を込めた正しい指差喚呼を実践し、安全に、速やかに復旧ができるよう訓練します。

※「ITS」とは「意識を込めた（I）、正しい（T）、指差喚呼（S）」の略称

2. 実施日時

2018年5月24日（木）10時00分～16時00分
（詳細スケジュールは決まり次第お知らせいたします）

3. 実施場所

村崎野イーハートブトレーニングセンター（MIT）研修棟
村崎野駅構内（駅西側）（岩手県北上市村崎野14地割66番6）

4. 参加予定者数

弊社約100名 設備関係パートナー会社約50名 合計約150名



【現場立ち入り前の指差喚呼】

5. ITS実践報告会における想定訓練の実例

(1) 踏切通過中のクレーン車が架線に接触した際の復旧訓練
（想定内容）

- ①クレーン車が踏切通過時、架線に接触
- ②架線に溶けた痕があるため、臨時で事故区間に列車を進入させない措置を講じたうえで停電手配し仮復旧



【停電確認のための指差喚呼】

(2) 線路巡回中に設備故障を発見した際の復旧訓練
（想定内容）

- ①線路巡回中に設備の故障を発見
- ②臨時で事故区間に列車を進入させない措置を講じたうえで必要な機材や人員を集め、限られた列車間合い時間で復旧



【レールの復旧作業】

※写真はイメージです。

【参考】村崎野イーハートトレーニングセンター（MIT）について

MITとは、レール・マクラギ・分岐器等の線路設備、線路を支える構造物・ホーム等の土木設備、駅舎・ホーム上屋等の建築設備、駅舎に付帯する機械設備、列車の運行を制御する信号設備、列車等に電気を供給する電力設備等、多くの分野で成り立っている訓練施設の略称です。

座学で覚えた知識をすぐに実践で活かせると共に、分野毎に実践的かつ専門的な訓練可能な鉄道設備保守管理に関わる技術向上のための訓練施設となっています。

1. 設備概要

敷地面積 : 4,470 m²（専用通路除く）（研修棟 85.6 m²）

訓練線延長 : 276m

主な訓練設備 : 軌道設備、伸縮継目1箇所、分岐器3組、横取装置1組、
ホーム設備1面、電車線路設備（トロリ線）、高圧配電線路、研修棟など

※2016年度に分岐器1組、高圧配電線路の設備を増設しています。（下線部）

※2018年度に軌道回路（信号機等）、安全体感設備、分岐器融雪装置等を増設する予定です。

2. 研修や訓練内容

研修 : レール、分岐器などを管理する保線技術

ホーム、防災設備などを管理する土木技術

電車線路、配電線路などを管理する電力技術

転てつ器、軌道回路などを管理する信通技術

・異常時対応訓練（分岐器不転換、災害発生対応）、技術競技会など

【MIT概略図】



防災研修棟



研修棟



全景

